

## 2016-2017年度 ブックスタート赤ちゃん絵本20冊が決定

各地域のブックスタートで、2016-2017年度に赤ちゃんに手渡される絵本の候補となる「ブックスタート赤ちゃん絵本20冊」が決定しました。対象者に手渡される絵本は自治体ごとに選ばれ、NPOブックスタートから提供されます。なお、絵本の提供は、出版界の協力を得た「非営利のしくみ」の中で行われています。

### ■ 独立した中立的な「絵本選考会議」

ブックスタート赤ちゃん絵本20冊は、2年に一度開催される独立した中立的な「絵本選考会議」で選出しています。赤ちゃん絵本に関する知識と経験が豊富な5名の選考委員(乳幼児発達の専門家、司書、保育士など)が、日本国内で出版されている赤ちゃん絵本\*の中から、選考基準に基づき、選考を行います。

2015年5月に、2日間にわたり開催された選考会議では、各委員の専門的な視点や豊富な実践経験から、様々な意見

見が交わされました。候補に挙がった絵本を、実際に声に出して読みながら魅力を味わったり、それらの絵本を赤ちゃんとともに楽しんだか、赤ちゃんや保護者がどのような反応を見せてくれたかなどの経験も共有。また、自治体の事業の中で手渡されることなども考慮した上で、選考を行いました。



\* NPOブックスタートでは、日本国内で出版されている赤ちゃん絵本を収集・所蔵しています。これらの絵本と、各選考委員から推薦された絵本を合わせた、約4,700冊の中から選考を行いました。

### 選考基準

- ・ 赤ちゃんが保護者と豊かな言葉を交わしながら楽しい時間を過ごすことで、心健やかに成長することを応援する絵本。
- ・ 上記に関し、年月を経て赤ちゃんから支持され続けてきた絵本。
- ・ 上記に関し、今後、赤ちゃんからその支持を受ける可能性が高い絵本。

### 選考委員 \*敬称略・五十音順

- ・ 遠藤 利彦 (乳幼児発達/東京大学大学院 教授)
- ・ 金澤 和子 (市民グループ「子どもと本」代表)
- ・ 庄司 みゆき (保育士/東京都武蔵野市まちの保育園吉祥寺 園長)
- ・ 永島 緑 (司書/大阪府豊中市立図書館)
- ・ 平田 恵美子 (沖縄県子どもの本研究会 顧問)

### 2016-2017年度 ブックスタート赤ちゃん絵本20冊

\*タイトル五十音順

『あそび』	作/ヘレン・オクセンバリー (文化出版局)
『いないいないばあ』	文/松谷みよ子 絵/瀬川康男 (童心社)
『おつきさまこんばんは』	作/林明子 (福音館書店)
『おふろで ちゃぶちゃぶ』	文/松谷みよ子 絵/いわさきちひろ (童心社)
『がたん ごたん がたん ごたん』	作/安西水丸 (福音館書店)
『かにこちゃん』	作/岸田裕子 絵/堀内誠一 (くもん出版)
『くだもの』	作/平山和子 (福音館書店)
『くっついた』	作・絵/三浦太郎 (こくま社)
『ごぶごぶ ごぼごぼ』	作/駒形克己 (福音館書店)
『じゃあじゃあ びりびり』	作・絵/まついのりこ (偕成社)
『だっだあー』	作/ナムーラミチヨ (主婦の友社)
『だるまさんが』	作/かがくいひろし (プロズ新社)
『ちょうちょう ひらひら』	文/まど・みちお 絵/にしきかやこ (こくま社)
『ととけっこう よがあげた』	案/こばやしえみこ 絵/ましませつこ (こくま社)
『はらぺこあおむし』	作/エリック・カール 訳/もりひさし (偕成社)
『びよーん』	作・絵/まつおかたつひで (ポプラ社)
『ぶうさんのプー』	作/100%ORANGE (福音館書店)
『もう おきるかな?』	文/まつまさこ 絵/やぶうちまさゆき (福音館書店)
『もこもこもこ』	作/谷川俊太郎 絵/元永定正 (文研出版)
『ゆめ にこにこ』	作・絵/柳原良平 (こくま社)

### ■ 地域で手渡す絵本を決定する際に……

「絵本選考会議」では、候補となった絵本を委員どうして読み合い、一冊一冊の魅力について意見を出し合いながら、様々な環境の中で子育てをしている保護者にこれらの絵本がどのように受け止められるか、などについて確認する作業が繰り返行われました。

地域で手渡す絵本を決める際には、ぜひ関係者の皆さんで、実際に絵本を手に取り、読み合い、絵本の世界を存分に楽しみながら選んでみてください。「この絵本でどんな時間が過ごせるかな」と、赤ちゃんや保護者の気持ちを想像することができるのではないのでしょうか。

### □ 絵本を貸し出します

ブックスタート赤ちゃん絵本20冊の見本を貸し出しています。地域で手渡す絵本を決める際にご利用ください。

- \*お問い合わせは地域支援担当まで。
- \*返却時の送料(実費)のご負担をお願いしています。



### ■ 非営利のしくみによる絵本提供

#### □ 特別な価格と流通の適用

ブックスタート赤ちゃん絵本20冊は、提供出版社に得失のない「特別支援価格」で、かつ通常の書籍流通と異なり、出版取次会社や書店を経由せず、出版社から直接NPOブックスタートに提供されます。そしてブックスタートで親子に手渡す絵本として自治体に購入されます。

このしくみは、2000年の子ども読書年の際に、出版界(出版社・出版取次会社・書店)がブックスタートを応援することを確認して行った「ブックスタート・パックスの絵本提供のしくみからは直接的な利益を得ない」という合意に基づき、運用されています。

### ～ 各地の絵本の選び方～

地域によって手渡す絵本の決め方は様々ですが、その過程や選考理由を明らかにし、関係者で共有しておくことが大切です。

#### CASE 1 富山県小矢部市 20冊すべてを十分に理解した上で

図書館主催の研修会で講師を務める絵本の専門家に、20冊の特徴を解説してもらい、図書館員とボランティアが、20冊を実際に手に取り意見交換をします。その後、市として手渡す絵本の投票を行い、図書館内で協議した上で、最終決定します。手渡す2冊の絵本は、特徴の異なるタイトルを組み合わせ、親子に様々な種類の絵本を届けられるよう配慮しています。

#### CASE 2 宮崎県小林市 委員会を立ち上げ検討

絵本の選考にあたり、図書館員やボランティアなどの事業関係者及び、保育士や幼稚園教諭、絵本に関心のある保護者による委員会を立ち上げています。委員会のメンバー全員でブックスタート会場を見学した上で、20冊すべてを手に取り話し合います。特に保育士や幼稚園教諭、保護者からは、事業に直接携わるスタッフとは異なる視点での意見も出されるため、大変参考になります。決定した絵本のタイトルと理由は、研修会などで関係者全員と共有をしています。

#### □ 活動の普及と充実を支える

特別な価格と流通を適用するこの「非営利のしくみ」によって、実施自治体に対する廉価でのパック提供が実現され、またその販売収益によって、NPOブックスタートが行う各種資料の発行及び提供、研修会の開催など、各地のブックスタートを支援する事業や組織運営が可能となり、全国各地の活動の普及と充実が支えられています。

\*「非営利のしくみ」はNPOブックスタートを通じて提供する「ブックスタート赤ちゃん絵本20冊」のみに適用されます。適用の範囲は、ブックスタートの目的である「最初のきっかけづくりの機会」に「対象者に手渡す分」のみとなります。

→次ページにつづく

## ～選考委員から～ \*敬称略・五十音順

遠藤 利彦 (乳幼児発達/東京大学大学院 教授)



赤ちゃんにとって、おもちゃと絵本の区別が最初から明確にあるわけではありません。赤ちゃんの絵本の受け容れは、目新しく魅力的なおもちゃに自然に引き込まれていくのと、さして変わらないのかと思います。そうした意味で、一つには、おもちゃの場合と同じように、赤ちゃんの好奇心を駆り立て、さらに赤ちゃんがそれに自発的に関わる中で新たな発見が得られそうなものを選ぶよう心がけました。もう一つには、養育者が、ただ大人目線で関心を惹かれそうなものではなく、絵本を見ている赤ちゃんの様子に接する中で、それまで知らないでいた赤ちゃんの意外な力や個性を見いだせそうなものを選んでみました。

金澤 和子 (市民グループ「子どもと本」代表)



赤ちゃんが心地よいと感じる絵本、保護者と豊かな楽しいひとときを過ごせる絵本を中心に、言葉のリズム・色彩・コミュニケーション力など、様々な角度から、また実際に寄せられた保護者からの声も反映させながら、選考にあたりました。たくさんの絵本の中から20冊に絞り込む作業は、緊張しつつも、ワクワクドキドキ楽しい時間でした。さらに、委員の皆様の言葉の端々から伝わる、絵本への熱い思いや子どもたちとの関わり方など、共感することが多々あり、貴重な学びの場にもなりました。すべての赤ちゃんに、これらの絵本が届き、幸せな時間がもたらされますように……。

庄司 みゆき (保育士/東京都武蔵野市 まちの保育園吉祥寺 園長)



本会議の参加にあたっては、保育園で、子どもたちが長く親しんできた絵本、子どもと大人が対話を楽しみながら、繰り返し楽しんできた絵本、そして、子どもの心が豊かに育つような、これから先長く親しまれると思う絵本を中心に選ぶ作業を行いました。選考の過程は、本当に楽しく有意義な時間でした。2日にわたる会議では、委員の方々の絵本に対する熱い思いに触れ、私自身も、新たな絵本との出会いや発見がありました。選ばれた絵本の奥深さに改めて感動したり、究極の選択に苦しみも味わいながら、誠心誠意選びました。子どもと保護者が、この絵本たちと出会い「かけがえのない今」と「心地よい幸せな時間」を繰り返し味わってほしいと願っています。

永島 緑 (司書/大阪府豊中市立図書館)



前回に引き続き選考に関わることになり、身が引き締まる思いの一方、今回はどんな方たちと絵本についてお話ができるかというわくわくする気持ちも。予想通り、今回もそれぞれの立場から多くの経験を元に絵本に関して意見を出し合い、選考するという貴重な体験をさせていただきました。図書館や街中で出会う親子も、環境や考え方はさまざまで、それだけに絵本の持つ可能性もまた無限大だと思います。子育てに正解がないように、このリストにも正解はありません。それぞれの状況に合わせて、地域の子どものために地域の皆さんが思いを込めて選ぶことが、大切な一つのメッセージです。これらの絵本の一冊一冊が、地域の赤ちゃんの幸せにつながる絵本となりますように。

平田 恵美子 (沖縄県子どもの本研究会 顧問)



乳幼児期は五感を通して色々なものを知り、その時期の大人との関わりで信頼関係が育つといわれます。そんな大事な時期にどのような絵本に出会わせたら良いか。絵と言葉、リズムなどが美しく、生き生きと表現され、子どもが喜ぶか。親子がコミュニケーションをはかるのにふさわしいか。そして、親が物語を深めることができるかということに視点を絞って選考しました。さらに、昨今の家庭環境にも配慮しました。選考会議1日目のプレゼンでは、各委員からそれぞれ絵本及び実践の紹介が行われました。2日目の選考会議では、熱心な討議の結果、20冊の絵本が決まりました。これまでに選ばれたことのある絵本に加えて、新しいものも数冊加わりました。どれもブックスタートにふさわしい絵本だと確信します。